



2月の校長講話より～五島慶太の生き方から学ぶ～

東京、渋谷が青木村とご縁があることを皆さんは既に知っていますね。青木村出身の五島慶太翁、東急グループの創始者として渋谷の大発展の基礎を作った方です。東急グループは今年度100周年を迎えています。

彼は生まれてから20年間、この青木村で生活し、その生活体験が、後の事業に大きく影響したにちがいありません。今日は「青木村の小林慶太」を窓口にして、生き方について考えてみましょう。

彼は、1882年(明治15年)に青木村殿戸に生まれました。今の東京大学となっていく東京帝国大学法学部を卒業し、農商務省や鉄道院で国の役人として交通や産業にかかりました。退職した後は、武蔵電気鉄道、これが今の渋谷と横浜を結ぶ東急電鉄東横線のもとですが、鉄道事業で成功を収め、今の京王電鉄・小田急電鉄・京浜急行電鉄などを含む、東京～神奈川県～静岡県中部および群馬県、長野県の私鉄の一部を統合した大会社を経営、後に国の運輸通信大臣となった方です。1959年(昭和34年)にお亡くなりになりましたが、大学の設立(今の東京都市大学)や美術品の収集など、文化や教育の面でも彼の業績はとても大きなものでした。

しかし、決して順調に成功を収めていたわけではありません。彼は上田中学、今の上田高校に一日も欠席なく毎日徒歩で往復約4時間かけて通い、その後、松本中学、のちに信州大学となっていく学校に進学、毎週、保福寺峠を歩いて往復をしていたといいます。さらに進学をしたかったのですが学費がなく、そこで、青木小学校で先生を務めて学費を貯めます。今の一橋大学への進学を試みるも受験に失敗、別の大学を経て、学校の先生等をしたのち、東京大学に入り直し、卒業するときには29才となっていました。

そして、30才で結婚。この時小林慶太から五島慶太となります。しかし、幸せは長く続きません。その10年後に4人の子を残して妻が亡くなります。今でいうインフルエンザによるものだということです。また42才の時には、選挙にかかわる違反があった、として、後に無罪は証明されていたのですが6ヶ月間牢屋で暮らすことになってしまいました。

第二次世界大戦では次男を失います。また、第二次世界大戦中に大臣を勤めたことから、4年間の公職追放、つまり戦争責任があるとして民間や政府の要職についてはいけない、とされてしまったのです。

このような苦難や挫折があり、それでも乗り越えて、後世に残す仕事をしていったことに、感銘を受けています。

そして、この五島慶太翁の生き方には、青木村出身である、ということもかかっているように感じます。

ご存知の通り、青木村には5件の百姓一揆がおきています。「夕立と騒動は青木から」です。天和2年1682年、享保6年1721年、宝暦11年1761年、文化6年1809年、そして、明治2年1869年です。

五島慶太翁が生まれたのは1882年、最後の明治2年の一揆から13年後のことです。事実、彼は小さい頃、父をはじめとして地域の方に歴史の話をよく聞いていたと伝えられていました。彼が義民のことを聞かされていないはずがありません。また、青木小学校で歴史を教えていたこと、一揆の中心となった入奈良本、中挾、夫神を歩いて毎週松本に行き来していたことも考えれば、彼が義民から影響を受けていなかったはずはない、とも感じています。

「金儲けは易しいが、経営とは違う。世のためになって利益を上げるのが経営。だから経営は難しい」

彼のいくつかの名言のなかの一つです。「世のためになって」が先にあることや、義民の精神とのつながりを感じています。

彼について学んでみると、思い出すが、この青木中学校の校歌です。「信濃にかおる不屈の意気」は、彼にぴったりの曲です。「山また山の峠はいくつ」「千曲をこえて」ここで千曲とは、“人生の曲がりくねった道のりである”と作詞者の宮澤章二先生が昭和51年の創立30周年の記念講演で語っているのですが、それを乗り越えるという意味でしょう。こうして、先の見えない絶望から這い上がって世の発展につなげたのは、「つくる未来に幸を實れ」と、これもやはり重なります。しかし、作詞者の講演の記録には、五島慶太翁を思って作詞したとは出てきませんでした。一方で、青木村について「正しい生活を迫害するものがあるのなら、それを自分たちの力で切り抜けていこうとする強い意志があることを知った。やはり心のどこかにこういう気風が流れているにちがいない」と語り、それをもとに作詞したとしています。

昔義民、さらに五島慶太翁が、今は青木中につながっている、そして、現在の渋谷の繁栄も青木村あってのこのこと…などと、何かワクワクするようなお話です。

もとより短い時間で語り尽くすことはとてもできません。ぜひ、皆さんも五島慶太翁について、もっともっと調べてみてください。青木村で育ち、暮らした人々なら誰でも五島慶太翁のことを知っている。誇りに思っている。そんな遠くない未来が青木村に待っているような気がします。

The 進路

人生はたった一度の旅である

3 学期に入って、3 年生は中学校卒業の後の希望進路実現に向けて努力しています。面接練習したり、願書を書いたり、教科担任に質問して自分のわからないところを少しでもなくして受検当日に向かおうとがんばる姿を見ながら、日々応援しています。では、1, 2 年生はというと、「進路学習」を行っています。職業調べをしたり、進路指導主事の松本先生の話の聞いたり、進路適性検査を行ったりと、「進路」というものについて考える時間をとっています。また、1 年生は保健の学習「自分らしさを知ろう」の授業も行いました。進路を考えるということは、「自分ってどんな人なんだろう」、「何が好きで何が苦手なの?」って自分を見つめることからスタートですよね。

1 年生の感想より

・「進路について考えるのはまだ早くない?」と思っていたけれど、今のうちから知っておいた方がいいことを学ぶことができました。「自分ならできる」という気持ちを忘れずに、進路について考えて行きたいと思いました。

・今日松本先生のお話を聴いて「幸せ」とはどんなことを考えました。人によって「幸せ」は異なるのでその違いが一人ひとりの人生を決めていくんだなと思いました。自分ににとっての幸せに合っていて、さらにお金をしっかりと稼げる仕事に就きたいです。

・中学を卒業したら、義務教育が終わるので、自分の進みたい道に進めるように、今から進路について考えていきたいです。



授業の様子



2 年生の感想より

・私は消極的で何事もあまりポジティブには考えられないのですが、話を聞いて「口に出せば実現したり気持ちが楽になったりするということも学べた」ので、これからの人生「いろんなことに挑戦して失敗して、成功してを繰り返して、より良い人生にしていきたい」です。

・進路=これからの学校というイメージが強かったので、進路が一生涯続くという考え方を知って、気持ちが軽くなった。夢とか特になければ、「幸せ」について考えてみて、将来自分が幸せになるには、「今の時期で自分の可能性を広げることが大切なんだ」と思った。勉強も好きではないけれど、今やっておいた方が幸せにつながると思ったら、『やる気』が出てきた。今からじゃ遅いと思うこともあったけれど、今日話を聞いて「『できる!』と思えばできる!!」から、自分も今からもつとがんばっていこうと思えた。

★**非違行為防止研修〔職員研修〕** 職員による非違行為防止のため、年度当初より、計画的に職員研修会を行っています。9月からの職員研修では、次の内容で研修を行いました。

9月 1 学期の学校評価アンケートより 2 学期の生徒との関わり方についての研修

10月 個人情報の流出に気をつけろ!!机上の整理など普段から気をつけることを確認した。

11月 個人情報の取扱いには注意しよう。事例からどうすれば良いか考え合った。

12月 生徒指導より研修報告をうけ、保護者との連携やチーム支援について確認。

1月 非違行為をしないことの誓い③ 学校評価アンケートの生徒の言葉より考える!!~PTA 会長を交えて~

※これ以外にも、年間を通して、職員朝会や職員会などで「交通ルールの遵守」や「体罰の禁止」「わいせつ行為禁止」など「非違行為防止 6 策」について、お互いに確認しています。今後も、職員の非違行為防止に努めてまいります。

令和 5 年度のアリスセミナー講師募集のお知らせ

・コロナ禍でなかなか開催できなかった「アリスセミナー」を、令和 5 年度は行いたいと思います。しかし今まで講座をやっていた方々から継続は難しいという連絡が数件重なり、中学校は困っています。そこで、**中学生と一緒にご自分の得意なこと好きなことを学びたい、魅力を伝えたいそんな方を募集します。中学校教頭へ声をかけてください。よろしく願います。(再掲)**



☆☆3月の予定 ☆☆

2 日(木) 修学旅行前検診(2 年) 7 日(火) 8 日(水) 公立後期選抜 3 年特別日課スタート

13 日(月) 生徒会退会式 14 日(火) 3 学期終業式 15 日(水) 卒業証書授与式

17 日(金) 公立後期選抜合格発表 30 日(木) 新 2, 3 年登校日